SORA
web magazine 2015.feb. vol.49

MAP CLICK!

philippines
フィリピン・リロアン
Liloan

Photo & Text : Yasuaki Kagii

リロアンはセブ最南端で、点在するセブの有名なポイントのど真ん中に位置する。スミロン島、アポ島、バリカサグ島、ネグロス島など一度は行ってみたいダイビングポイントへボートでアクセスすることができる良ロケーション。また、今回紹介するリロアンマリンビレッジには素晴らしいハウスリーフがある。そのハウスリーフはたくさんのリピーターに支持され、人気抜群。一度の滞在では、潜りきれないリロアンの極上ダイブサイトへ、さぁ、ようこそ!

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
tsumishima.com
We World explorer
(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp
© 2015
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.

驚き Surprise

philippines
フィリピン・リロアン
Liloan

リロアンマリンビレッジの前のビーチポイントやその周辺のポイントは、本当に面白い。一応ボートを使用して1～3分ほど移動になるけど、ハウスリーフのような感覚で楽しむことができる。そんなお気軽なポイントだが、リロアンマリンビレッジがあるセブ島と対岸のネグロス島の間には海峡があり、潮流がある。身近でアクセスし易いポイントでありながら、潮流の影響を受けているので、実に環境も生物も様々。リロアンマリンビレッジは多くのリピーターがいる。そのほとんどは、フォト派ダイバーで、このハウスリーフを好んで潜られる方が多い。ポイント名は、ホワイトロック、マヌリバ、イラク、アンテナなどなど。そんなハウスリーフの驚きを今回は紹介!

驚き Surprise

まずは、様々な環境がある。水中に根があれば、そこには黄色いウミシダがたくさん付着し、ピンク色やオレンジ色のソフトコーラルが群生している。水中世界がとても華やかで、そこにお魚が群れているので、とてもフォトジェニックだ。チーフガイドの関口さんが「毎回、それほど珍しい生き物が出現するわけではないですが、環境が恵まれているので、普通種でも良い写真を撮ってもらえます」と話してくれた。ゲストの方は、「ポイントが近くて、何本も潜れるのが嬉しい。被写体だらけ、これはいいやと言うくらい生き物はいるし、写真がうまく撮れる気がする!　そして、撮り易いようにガイドさんが色々と教えてくれる」と話してくれた。私のお気に入りは、所々に砂地があることと浅瀬に海藻が繁茂していること。白と緑の配色が、私の水中写真をより面白くしてくれる。

驚き Surprise

今回の取材でも、素敵な出会いはたくさんあった。まずは、セジロクマノミのイソギンチャクの近くに、ジレンマブレニーの巣があり、簡単に２種類を一緒に撮影できた。このジレンマブレニーはイクメイシの穴を巣穴にしていたり様々な背景、環境で撮影ができるので、とても楽しい。他に、ツースポットブレニーやホワイトラインブレニーなどと同じように愛嬌のあるお魚も多い。そして、ベニハゼ類も多く、綺麗なホヤなどの環境にいるので、フォトジェニックだ。

philippines
フィリピン・リロアン
Liloan

驚き Surprise

philippines
フィリピン・リロアン
Liloan

ウミウシも見逃せない。イロウミウシ、ゾウゲイロウミウシ、シンデレラウミウシ、キカモヨウウミウシ、センヒメウミウシ、モザイクウミウシなどなど。水温が下がる時期は、熱帯系と温帯系が同時に見られるので、種類が増える。また、ゲストにとっても探さないと見つからないけど、よく探すとたくさん見つかるので、「見つける!」という喜びも味わえるのが良い。他には、人馴れしているゴールドスペックジョーフィッシュが、口で小岩を上手く動かし、自分で巣穴を塞ぐという芸をもっている関西風のエンターティナーもいる!

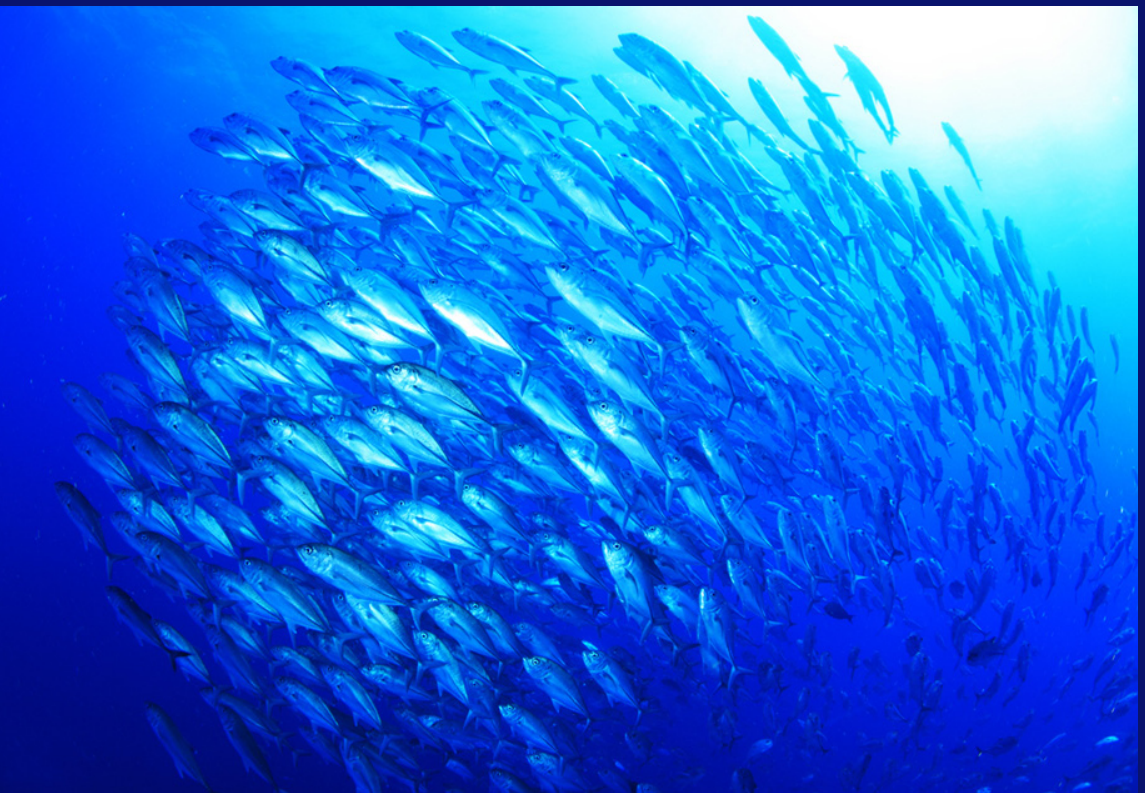
驚き Surprise

これが本当の驚きだった!　最近の新しい発見だったという、糸くずのようなフィコカリス・シムランス。この20年間、一度も被写体が何だか分らず、闇雲に撮影したことなどなかったが、このエビだけは、よくわからずにガイドさんが差す先を、なんとなく撮影した…。わかります?　他にも赤いカイメンに棲むパロンシュリンプも発見したという。さらにエビ、カニの甲殻類は豊富で様々な環境を利用して、バサラカクレエビ、ナデシコカクレエビ、バブルコーラルシュリンプなどなどに出会える。

philippines
フィリピン・リロアン
Liloan

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

Ocean 海



philippines
フィリピン・リロアン
Liloan

こちらもお薦めのロングレンジのボートポイント、アポ島。マリンビレッジから、ボートで約1時間半のポイント。島の周りは、着底が一切禁止の海洋保護区で、手付かずの海中世界を楽しむことができる。魅力は、まずコゴンポイントのギンガメアジで、潮の流れに乗りながら、サイズの大きなギンガメアジの群れを探していく。これはゲストのリクエストNO1！　そしてガイド一押しは、チャーチポイントのサンゴ礁。浅場から深場まで美しいサンゴが広がり、その規模は、1ダイブ中にずっとサンゴが続いているという魅惑のポイント。他にも、ロウニンアジやカンムリブダイ、カメなどの大物も見られる。リロアンマリンビレッジからは、同じロングレンジとしてバリカサグにも遠征している。

Ocean 海

癒し系のスミロン島へ

リロアンマリンビレッジからボートで約30分、ミドルレンジのスミロン島。ドロップオフの地形が特徴で、ハウスリーフから少し移動しただけで、見られるお魚が変わったので驚いた。その代表は、バーチークダムゼル、スプリンガーズダムセル、ホワイトダムセルなどで日本にいない種も多い。以前、約1年間ダイバーがあまり入らなかった時期があり、サンゴが随分再生した。そのために小魚も増え、海中自体が生き生きとしている印象を得る。

Ocean 海

マクロ好きのボートポイント・ユタ

ユタはハゼが多いネグロス島のポイントで、マリンビレッジからはミドルレンジに当たる。火山島なので、砂地は黒っぽく、生息するハゼも砂の色に影響されて、少し濃くより鮮やかに見える。日本では見られないメタリックシュリンプゴビー、レッドマージンシュリンプゴビー、マスクドシュリンプゴビーなどが代表的。また、日本でもお馴染みのヒレナガネジリンボウ、ミジンベニハゼも見られる。ここ数年、泥地も多くなり、スパングルドシュリンプゴビーなども見られるようんなった。また浅い深度で、トウアカクマノミのコロニーがあり、そのイソギンチャクには、オドリカクレエビ、ホシナシイソギンチャクガニを見ることができる。ごくまれに、ミミックオクトパス、ハナハゼ、センネンダイの幼魚、ゼブラバットフィッシュが現れることも!

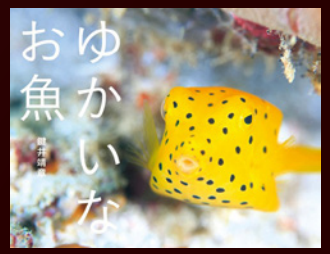
philippines
フィリピン・リロアン
Liloan

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

Romance ロマンス

philippines
フィリピン・リロアン
Liloan

実は、今回も取材時期と４月に出版する写真集「ゆかいなお魚」の撮影時期が重なり、テーマだった「お魚のかわいい正面顔」も、リロアンでたくさん撮影することができた。例えば、タルボットダムセルやバーチークダムセルの幼魚などはたくさん居て、本当に撮影し易かった。また、ニチリンダテハゼの幼魚も多く、人に慣れているのか接近撮りができ、引っ込んでも、すぐに出てきてくれる。そして、イチモンジコバンハゼも安全停止中にじっくり撮影できるほどたくさんいた。なぜか可愛い正面顔は、幼魚ばかりになってしまい、撮影の度に恋に落ち、リロアンの海中世界を漂っていた。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

リロアンマリンビレッジの魅力

リゾートとダイビング施設が一体になったリロアンマリンビレッジ。ダイバーのために設計されたためにストレスフリーで毎日のダイビングを楽しむことができる。部屋のタイプは、オーシャンビューデラックス８部屋。スタンダードが2部屋。部屋から海、または、ボート場までは歩いて30歩。少し寝坊しても大丈夫。そして、各ポイントも近いので、遠征しない限り、毎ダイブ、ダイビングセンターに戻ってくるので、部屋でゆっくり休むこともできる。また海に張り出したレストランも海風が心地よいのでこちらでもリラックスできる。3食ビュッフェも日本人好みの味付けで、品数も多く美味しい。陽子さんはじめ、日本人スタッフが常勤しているので、何かと心強い。

頼りになるリロアンマリンビレッジのガイド陣!

関口(グッチー)さん

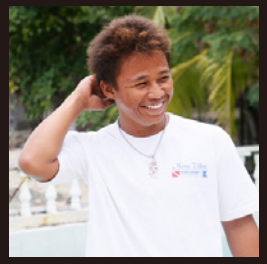
リロアンに12年のチーフインストラクター。「水中撮影が好きなので、リロアンでは、ゲストの皆さんに良い写真を撮って欲しいと思っています」とのこと。関口さん自身が水中撮影に精通しているので、そのガイディングは写真家を虜にする。「最近は老眼で…」と言いつつも、若いスタッフに負けないように頑張っている。

ル イ

オープンウォーターからダイブマスターまで、リロアンマリンビレッジで受講。マリンビレッジ育ちの生粋のローカルガイド。ビギナーからベテランまで、優しくケアをする。「ゲストの見たいというリクエスにほとんど応える」と言う、そんな眼力を持つ。水中スレートには、カタカナで生き物の名前を書くサービスもあり。まだまだ伸びていく可能性を持つ若手ガイドだ。

ジョセス

2013年にDMに認定。ルイ兄さんに追いつけ、追い越せと日々、勉強をしているローカルガイド。水中では常に困った顔をしていますが、よく小さい生き物を見つけるファイント野郎。



ＪＲ

リロアンマリンビレッジで長く活躍したガイド・ランディの息子、子供の頃から釣りが大好き、お魚を見つけるのが大好きで、ガイドとしては、まだまだ勉強が必要だが、ランディのDNAを受け継ぐ彼には、期待大。フィッシュウォッチングばかりだけでなく、安全管理も修行中。